

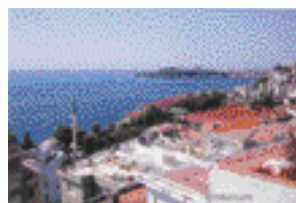
Bulletin 192

2005年12月号

平成3年4月16日第三種郵便物許可 平成17年12月15日発行(隔月15日発行) 第19巻第5号 通巻192号

支部サイトから メールアドレスの登録を!

<http://www.jia-kanto.org/members/>

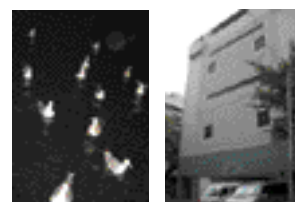


社団法人 日本建築家協会
The Japan Institute of Architects

関東・甲信越支部
〒150-0001 東京都渋谷区神宮前2-3-18 JIA
館

目次

イスタンブールの黄昏 — 日建設計都市・建築研究所 與謝野 久	2
丸の内再開発と歴史的建造物 — 三菱地所設計 大澤 秀雄	6
愛・地球博は 観客に優しくかったか... — 寺尾三上建築事務所 寺尾 信子	8
本音で語る「理論合宿」に初参加 —— エスアイ建築事務所 齋藤 榮	10
地階居室への漏水について — 塩田設計事務所 塩田 純一	11
2005年度保存問題茨城大会 「つくば30年の検証 美しい街を未来へ」 —— のあ設計事務所 内藤 彰	12
「住宅」を通して市民に伝えていくこと —— インターセクション 高木 恒英	14
施設見学会と親睦会 — 四電工東京本部 穴吹 正春	15
仙行寺総合文化会館東館見学会 — 住宅生産研究所 中田 正二	15
支部財政検討特別委員会の提案 松原建築D・I研究所 松原 忠策	16
選挙公報	18
2005年第4回役員会議事録概要 / 第5回役員会議題	21
こんな本を読みました: 『行動主義』	22
広報から / 編集後記	22
イベントセミナー情報	23



イスタンブールの黄昏

この「まちのかたち」を決めているものは何か



與謝野 久

夕陽を受けて黄金色に輝くボスフォラス海峡の海面をすべるように進む船上から、目の前に展開するイスタンブールの丘陵景観の連なりを眺めながら、私はある感慨にとらわれていました。2000年近くの間、西欧・アジア・アフリカなどからの数多の民族同士の宗教・習俗・文化の衝突と交流、融合・離反劇を繰り返し、しかも20世紀の近代化・工業化の時代の荒波も受けつつ、この街のスカイラインとタウンスケープは良くコントロールされています。無論、見苦しい看板一つなく無表情なコンクリートビルもさして見られず、緑豊かで、かつての歴史のドラマを語るアヤソフィア、ブルーモスク、ガラタ塔などのシルエットが紺碧の天空を背にシッカリと見とめられます。このまちのかたちを決めているものは一体何なのだろうか、法制度だけではこうはいくまい?という感慨でした。それは、ビザンティン、ローマン、ターキッシュなどの物的な空間様式や、斜面街区特有の階段と広場のリズムから生まれるものというのではなく、むしろ形而上の精神・文化構造の源によるものの方が大きいという察しはつくものの、実感を伴いません。イスタンブールの黄昏は、船上でのこの問いかけの切っ掛けをもたらし、推敲を深めてこの地のアイデンティティを理解して欲しいとする憂愁の「地の色」を湛えていました。

本年の7月上旬の約一週間、トルコのイスタンブール



黄金色の海面の向うに旧市街とガラタ塔そしてアヤソフィアのドームのシルエットが浮かぶ。

でのUIA総会の視察と2011年UIA総会東京誘致へ向けての支援ミッションとを旗印に掲げて、JIA関東甲信越支部から向かったのは、松原グループと伊平グループとの2団体総勢約40名の人たちでした。私は後者の「イスタンブール市内および近郊のみを巡るグループ」の一員として行動を共に致しました。時にはグループ行動で、ある時は単独行動でこの二本の足で歩き回り、UIA総会にも出席し、冒頭の黄昏の問いかけをこの短い滞在期間の中で私自身に投げ続け、そこで全身で感じ取ったこのまちのかたちについての思惟と、これを今後のJIA・UIA活動へと膨らませた私の浅見とをここにご紹介し、海外の都市建築訪問レポートとさせて頂きたいと思います。

重層する「ところ」の文化の構造と……

Roman's-Rules

少し大袈裟な表題ですが、このまちの構造を決定づけている一つには、明らかにブルーモスク、アヤソフィア、トプカプ宮殿他の数々の巡礼礼拝施設であることは論を待たないことでしょう。しかし、我々東洋の人間の理解を超えるのは、度々の異民族間の衝突と蹂躪を繰り返し聖地の主が入れ代わっても、灰燼に帰するほどに破壊されることなく、過去のアイコンの上に新たなものを積み重ね、あるいは塗り重ねて何の疑問も抱かない、その「ところ」の文化の構造です。そこには「のこす」「なおす」



ブルーモスク 群青色の海、紺碧の空に浮かぶ姿は誠に美しい。

「かさねる」という思考回路が感じられます。ここにはかつての古代ローマの現地固有の宗教と文化との同化原則という統治の「きまり (Roman's-Rules)」が通底しているのでしょうか。この「かさねる」例は枚挙の暇がないほど多く見られますが、この特性はまちの景観に時間的な厚みを備えることとなり、それはそれで息苦しいほどの民族間の葛藤の重なりとして胸に迫ってきます。何はともあれ、こうしたきまりのDNAがこのまちのかたちを決めている「こころ」の文化を成していることは言えそうです。

裏通りの無名の小さなモスクにも見られる……

「多様性の共存」

金角湾の対岸の旧市街の建築群においてもこの「かさねる」「つなぐ」特性は見られ、100年～200年もの間店構えを張ってきた建物もあれば、アールデコ風のギャラリー、ガラス張りのペンシルオフィスビル、5～6階建ての木造ビル、前世紀の遺物の様式建築の数々などがあり混沌としているものの大きな街並み景観の額縁は維持され、まちは一定のタウンマネジメントがなされていて清潔に保たれています。こうした中で裏通りに入って遭遇した無名の小さなモスク、近くのシナゴークの佇まいは、表通りの壮麗なモザイクで包まれた主流建築とは対極をなすもので、ズシリとした存在感が迫ってきました。現地の土（濃い小豆色）と花崗石を塗り込み式に積み上げた外壁で出来ており、その表面に刻まれた時間の軌跡は、壁土を積み上げている職人の手の温もりを時空を超えて感じさせました。これらには先の「のこす」「なおす」のさらに底流にある様々な民族の営みと血とを「つなぐ」執念が宿っていますが、その語りかけるよ

うな落ち着きには、しばし足を止めさせる迫力があります。こうしたヴァナキュラーな建築群にこそ「まちのかたち」を成している飾り気のない真実の姿があると私はこれまでも感じていました。生活レベルは質素そのもので、トルコの全労働人口の約60%の労働者がこのまちで生計を立てている集中度合いと混交度合いがこのまちの産業経済構造を特色づけています。結局、宗教的な生活規範と生活観、質素な生活経済構造、さらには多民族間の確執を経ての人々の付き合いの距離のとり方の智慧、数多の神が祭られている「多様性の共存」に象徴されるローカリティ溢れる価値観等々が、このまちの文化構造を多元的に価値連鎖させる論理を長年にわたり育んでいるようです。

一方の基層となっている食文化と音環境からの規範山岳部が国土の80%近くを占めるために、農業生産にも困難が伴うように見られますが、この地の主たる食材であるトマト・小麦（パン）・チーズ・野菜・ヨーグルト・各種海の幸そしてワインなどで盛り付けられるトルコ料理は、概して堅実で質素で庶民の味でありバイタリティそのものです。味付けも薄味で我が国の国民にとっても抵抗のないもので、格好をつけ奇を衒ったキッチュな料理は眼にしませんでした。従って、街中のレストランも比較的日常生活レベルのメニューを取り扱う域にとどまり、今一度、この地を再訪してあの料理を街全体の雰囲気と共に食したいと思わせる、ノーマルなテイストがあります。要するに自然の幸（神の恵み）に感謝して生活する厳しい回教戒律の実践の一面が見て取れます。また、少し視点を換えて今ひとつまち全体を覆う規範に「音環境」があります。街には車が疾走し船の汽笛が響



ビザンチン時代のキリストの宗教画が漆喰で塗りつぶされ、その上に新たな宗教画が描かれている。ここでは、再びその漆喰が剥がされ、キリスト画が陽の目を見ている。イスラム、キリスト他、多様な神々がこの地で息づいている。



裏通りの無名の小さなモスクの佇まい
独特の落ち着きと親しみとは、ヴァナキュラーの建築特有のもの。

きますが概して静かな環境でした。その中で定時に一斉に流されるコーランの斉唱は、庶民の聴覚をある一定レベルに研ぎ澄ますこととなり、「まちの全体感」の共有に聴覚が敏感に働くこととなります。こうした日常生活の規範は、先の「こ

るの拠り所」と「連鎖の論理」とを聴覚を含む五感で融和させているようにも見受けました。

まちのスカイラインへ向ける視線の真剣さ

古来から中国をはじめ我が国でも、大空と山の稜線との触れ合う輪郭部の空間に霊が息づいているという山岳信仰の習俗がありました。ここイスタンブールでは、多くの宗教のモスク、シナゴグ、教会のドーム、尖塔（ミナレット）、鐘楼などが大空に競い合うように突き立っています。その鮮やかな輪郭線を大切にする「いのり」に近い真剣な感性が、その背景となるまち全体の丘陵の稜線に見えざる力を吹き込んでいるようです。稜線沿いには高圧鉄塔はなく、無論大きな看板も見られません。まちのスカイラインを大切にすることは、単なる景観上の美観的判断を超えて、「いのり」「はぐくむ」という真剣な動機に根ざしているようです。これが旧市街から海峡沿いの丘陵地一体に至るまで及んでいて、その「見えざる力」のただならぬ強さを感じさせるのです。この感慨は、偶々、市街を巡っていてこの丘陵斜面に構えている、ある建築設計事務所を訪問した時に確かな実感を伴うことになりました。その事務所の最上階にはプレゼンルームがあり、そこから望むボスフォラス海峡への眺望は、対岸のアジアサイドの丘陵景観を含めて誠に絶景でありました。そして最上階周囲を見渡してみると、この丘陵の斜面内の全ての建物から海峡を望む視線を多彩色の糸と例えて、それらが織り上げた一つの大きな織布がそのまま丘陵のシルエットを形づくっている、そのような印象を受けました。この「まちのかたち」を決めている見えざる力の実体はかなり迫ることが出来た思いでした。結局、歴史的、宗教的、風土・地勢構造的な叡智の

積み重ねを確固たるローカリティの基盤として、信者・庶民・有識者・専門家の叡智と努力を動員させて、このまちのかたちが自己組織化して緑豊かな景観とともに息づいているように、ある種の敬意と納得感を覚えたものでした。

景観豊かなこの地でのUIA総会……

テーマは「建築のグラン・バザール」

このような物心ともに魅力的な地で、UIA イスタンブール総会は開催され、この大会テーマはこの地を象徴するように「建築のグラン・バザール」と銘打たれました。総会の前半は国際建築家大会として日本からは、安藤忠雄氏、隈研吾氏他からのプレゼンがなされ、各国から総勢27名の建築家による基調プレゼンと展示とが盛大になされたと聞きます。私達のグループが会場に入ったのは後半の総会でした。会議での討論の内容は、思いのほか、率直かつストレートな意見（倫理綱領の改定、会員資格の不公平感クレーム他）の応酬で、会長のレーネル氏は、ひたすら我慢強く真摯に耳を傾けられ肅々と議事を進められていました。その会議の最中、議員席側では会場が少し薄暗いことも功を奏して、活発に懇談が並行して続けられており、フェスティバルとコミッションの同時進行が親密な雰囲気の中で繰り広げられていました。まさにグラン・バザールという印象深い多様性の交流の場ではありました。

次なる交流の場誘致へ向けて……

「YES, TOKYO!」成る！

総会最終日の前夜、JIA 主催の東京誘致祈念を込めた盛大なパーティが開催され、私達関東甲信越支部の面々は、ホスト役に全身汗まみれになりながらサービスとア



建築設計事務所最上階のプレゼンルームから海峡を望む
一歩外へ踏み出すとウッドデッキのルーフガーデンが広がる。



丘陵地の稜線に沿って、緑と住宅群が、海峡への視線を遮ることなく配置されている。各建物の海峡側には、ルーフデッキが必ず設けられており、巧みに視線をコントロールしている。

ッピールに努めました。招待客 300 名のところを約 450 名の世界の建築家が一堂に会し、歓談の輪あり、歌あり、エールスピーチありで誠に盛会でありました。我が支部の面々は会場の出口で、一人当たり 200 名～250 名の招待客の皆さんと握手を繰り返して「YES, TOKYO!」をアピールしたものです。握手した時の手の痛みが未だ残っています。

明けて翌日の午前 10 時から、いよいよ競争相手のダーバンと東京との誘致プレゼン合戦が、静かな中にも熱っぽく繰り広げられ、国広・岩村両理事による導入部の英語掛け合いトークから始まり、「縁 - 円 - 和」をテーマにしたプレゼンがビジュアルに流暢なフランス語を伴って進められ 20 分キッカリにまとめられました。その後の投票の結果は、「135 対 117」という 18 票の僅差で見事、誘致権を勝ち取り、小倉会長は各国の建築家から祝福の握手攻めにあいました。まさに「YES, TOKYO!」は成ったのです。

西のこころと東のこころの交流.....

イスタンブールからトリノそして東京へ

かつてシルクロードは、西欧とアジアの要であるこのイスタンブールとトルコ・モンゴル・中国・朝鮮を経て、日の出ずる国日本にまで通じていました。当時は奈良が都であったわけですが、今は東京。この地イスタンブールで 2011 年の開催地として東京に決まったのは、時空を超えての壮大な「縁」であったとの感慨を覚えます。イスタンブールの歴史には、1453 年の「コンスタンチノーブルの陥落」で当時の西欧のキリスト教圏諸国を震撼とさせた独自の歴史があります。今日に至るまで回教国であるトルコは、その後「個」の集合としての「全」



アヤソフィアを望む 左右のミナレット（尖塔）と中央のドームの輪郭線が青空に鮮やかに突き立っている。アヤソフィアはハギヤソフィアとも言い「聖なる叡智」を意味する。ここでは東と西の「こころと叡智」の交流をも標榜しているようでもある。



UIA総会での一コマ。
2011年東京大会誘致が決まって握手攻めにあう小倉会長（中央）

つまり「多様性の共存」を旨として独特のローカリティを育てています。その独自性に根ざしつつもグローバルな対話と交流を進める成熟化の道を歩み、ここイスタンブールはその象徴的都市であるわけです。こうした西欧寄りながらも独自色守る独特の「西のこころ」を標榜する拠点に対して、もう一方のシルクロードの先の拠点国である日本も、非キリスト教国で経済大国になった独特の国です。こちらの「東のこころ」は、物事を Wholistic に捉えて「個」と「全」を包括的に把握する特有の世界観に根ざしています。この点は世界で注目されています。ただ、西との対比で考えた場合、東、特に我が国にこれまで欠けていたのが「社会財の長寿命性」です。近代化推進の御旗のもと築き上げたビル・住宅・高速道路などは、まるで耐久消費財のごとく寿命が来ています。「我々は一体何をつくってきたのか」、その視点での環境の立て直しの示唆を現地で改めて感じました。

さて、私達が、6 年後の UIA 総会東京へ向けて、取り組まねばならない課題の一つには、イスタンブールからトリノと続くこの度の「縁」を念頭において、西と東の「こころと叡智」の交流を一層進め、かつての日本の文明形成上の特質を発掘して、世界に誇れる「まちのかたち」の再生プロトタイプを指し示して行くことがあります。幸いなことに、「長寿命性、持続性」を旨とした好事例が各地で、その地域の「部分的」存在ながら徐々に現れてきています。こうした好例の再発掘と顕彰とこれらの連鎖化が今大切なのです。この度の訪問で感じたことの一つは、すでに各地で芽生えている好ましいかたちを「つなぐ」ことと、さらに地域独自の価値を「のこす」「つなぐ」「いかす」「積み上げ」つつ好ましい「まちのかたち」の全体を「はぐくむ」という規範の、時空を超えた意義の重さでした。

以上、雑駁な書き下ろしの印象記となりましたが、今後の活動に資して頂ければ幸いです。

(株)日建設計 都市・建築研究所長

丸の内再開発と歴史的建造物



大澤 秀雄

昔、丸の内には倫敦(ロンドン)と紐育(ニューヨーク)がありました。明治後半、馬場先通りの両側に建ち並んだ煉瓦造の建物群を見て、当時の人々は「一丁倫敦」と呼びました。時代は下って大正末、東京駅から皇居へと向かう行幸通りには、南に「丸ビル」(T12、三菱地所部)と「郵船ビル」(T12、曾禰中條)、北側には「東京海上ビル」(T7、曾禰中條)と、アメリカ式の大型高層ビル(当時としては)が軒を接して建ち、この一帯は「一丁紐育」と呼ばれたのでした。

勿論、皆さんご承知のように一丁倫敦も一丁紐育も今もうありません。昭和43年に「三菱一号館」(M27、J.コンドル)が解体され、一丁倫敦は完全に姿を消しました。一方、一丁紐育も「東京海上ビル」、次いで「郵船ビル」と建て替えられ、最後に残った「丸ビル」も平成10年には解体されました。また、「三菱銀行本店」(T11、桜井小太郎)、「東京銀行集会所」(T5、横河工務所)なども次々と丸の内から姿を消しました。さらに、戦後の建物ですが、丹下健三氏の「東京都庁舎」ももうありません。

ちょっとだけ、これらの建物が残っている丸の内の街並みを想像してみてください。どうですその風格、その迫力、その美しさ。圧倒されませんか。ああ、本物をもう一度見てみたい.....。

しかしそれでも、丸の内には今なお多くの歴史的建造物が残っています。重要文化財の「明治生命館」(S9、岡田信一郎)、その明治生命館よりも古い「東京中央郵便局」(S8、吉田鉄郎)、赤煉瓦の「東京駅」(T3、辰野葛西)、コーナーに尖塔を戴いた「丸の内八重洲ビル」(S3、藤村朗)等々、幾多の変遷を経ながら今なお現役で頑張っている建物があります。

そしてまた、丸の内は歴史的建造物保存手法の宝庫でもあります。「明治生命館」は完全な動態保存、「日本工業倶楽部会館」(T9、横河工務所)は免震構造を導入した一部保存と一部復元、「東京駅」は戦争で破壊されたドームと3階部分を復元する計画が進行中、「三菱銀行本店」は前庭にイオニア式オーダーのキャピタルが部分保存(部品保存?)されています。「東京銀行集会所」や「第一生命館」(S13、渡辺仁 他)は外壁の復元、「大手町野村ビル」(S7、佐藤功一)は所謂イメージ保存、新しい「丸ビル」もその範疇に加えても良いかも知れません。また、一丁倫敦の始まりであり、かつ最後まで残った煉瓦造オフィス「三菱一号館」は、解体時に行われた詳細な調査に基づく実測図と写真などの記録保存と一部の部品保存、そして今はそれらを活用した復元計画が進行中です。

さて、いささか長すぎたようですがここまでは前置き。本題は、何故いま丸の内では保存や復元が注目されているか?ということです。



明治生命館



三菱銀行本店のイオニア式キャピタル



東京中央郵便局

かつて「オフィス街といえば丸の内」、そんな時代がありました。しかし、淀橋浄水場を埋め立てて新宿副都心が出来たのを皮切りに、渋谷、池袋が新都心として再開発され、青山通り沿いにビルが建ち並び、湾岸地域の開発が進み、品川、汐留、六本木、日本橋、大崎、秋葉原……交通インフラと情報通信技術の発達に後押しされて、今やオフィス立地に適さない場所を探す方が難しいほどです。建物の性能は、ちゃんとした事業主とちゃんとした設計者とちゃんとした施工者が組めば、それほど極端に違いが出るわけではありません。では、テナント誘致のためにどこで優位性を表現するかとなれば、最大のポイントは街（エリア）の魅力を高めること！となるわけです（勿論、賃料という別の大きな要素はあるのですが）。今、湾岸は湾岸の、六本木は六本木の、そして丸の内は丸の内の、エリアとしての魅力アップにそれぞれが真剣に取り組んでいます。

さてさて、では丸の内の魅力とはいったい何でしょうか？ しかも丸の内だけあって他にはない魅力とは。ここで話は長かった前置きに繋がります。丸の内において他にないもの、その一つが近代的オフィス街としての長い長い歴史です。明治27年の「三菱一号館」に始まった丸の内オフィス街は、その後確実に発展を続け、今では大手町、有楽町を含めた広域丸の内、建物延床面積約600万平米、就業人口約25万人、東証一部上場企業の約10%の本社が集積する国際的ビジネスセンターに発展しました。この、100年を優に超えるオフィス街としての歴史と伝統、その風格ある街並みと熟成された街の文化、これこそは丸の内において他にはない、独自

の魅力といえるものです。そして、そのことを最も分かり易く、最も直截に伝えるものが街の中に残る歴史的建造物であり、それらを含む街の佇まいなのです。

前置きでも述べましたが、近年、丸の内では保存や復元など様々な形で歴史的建造物を活かした再開発が行われるようになりました。世の中の流れの変化、建築史家や保存問題委員会を中心としたJIAの継続的な活動などを背景にして、事業者の判断の中に、「これからの街づくりの中では、その街の歴史や奥行きを伝える歴史的建造物は街の付加価値を高めるものとして、少なくとも開発との共存の可能性を検討すべきものである」との認識が醸成されつつあるという確かな感覚を、私は感じています。そしてそのことが、今行われている保存や復元の原動力のひとつになっていると感じています。計画が進められている「三菱一号館」の復元も、こうした背景の中で実現に向かっている、そう捉えることが出来るのではないのでしょうか。

丸の内の魅力は歴史だけではありません。皇居の緑、整然とした街並み、充実した都市インフラ、銀座や日本橋地区との相互連携等々、活かすべき資産は沢山あります。一方、丸の内以外のエリアにも、それぞれの魅力、優れた資産があります。それらを発見、発掘し、その魅力を十分に活かした個性ある街づくりが各所で進められています。こうした街づくりの取り組みを続けていくこと、それが東京という掴み所のない都市を、変化と抑揚に富んだ、面白くて不思議で奥の深い魅力的な都市に変えて行くことに繋がるのではないかと考えています。

（文中の建物名は原則的に旧名称を用いています）

三菱地所設計



丸の内八重洲ビル



日本工業倶楽部会館



三菱一号館

写真「三菱一号館」は三菱地所(株)
その他の写真は筆者

愛・地球博は 観客に優しくかったか...



JIA環境行動委員会
委員
寺尾 信子

9月8日～9日の「JIA 建築家大会 2005 東海」に参加後、9月10日朝、万博会場に向かった。前々日、「JIA 環境建築賞受賞者記念講演会」の司会を担当し、充実した爽やかな講演の余韻を心に持ちながら、同じ大会に出席したEさんに同行していただいたのだが、閉幕に向かって観客数がピークに達している時期だったため、思いがけない経験をした。

JR 岐阜駅を出て会場に入れたのは3時間後、さらに30分かけて入れた瀬戸会場では各館数時間待ちの上、「里山遊歩ゾーン」は自然体感プログラム定員超えのため入り口でシャットアウト、広くはない「海上広場」で長時間滞在できる状態ではなく、JIA 杉並地域会の催しの予定もあり、会場を後にした。

翌日、違ったルートと違うゲートから再び会場を訪れ長久手会場を1日、回った。覚悟はできていたが、早朝から訪れたにもかかわらず、人気展示館の入場はできず、グローバル・ループを散歩しながらの外観見学と会場全体の「環境」観察に切り替えることとした。

本稿では愛・地球博のテーマである「環境」の様々の試みを紹介し、感想を語ることが求められていると思うが、閉幕間近の原稿依頼ということで、今回のような観察とならざるを得なかったことをご理解いただきたい。

図地反転というか、思わぬ観察ができたことに心から感謝したい。



地面と空、側壁からの熱に耐える（西ゲート前、9月11日午前）

観客の満足と忍耐

予定より700万人上回る2200万人の入場者、またその4割がリピーターであること、「図」の部分である「展示館」や「催し」の魅力がなければこの結果は得られなかったことであろう。

帰途のリニモで30数回通ったという少年に会い、またテレビのインタビュアーに「何度並んでもまた来たい」と答える主婦の言葉を耳にした。

予定より大幅に多く動員したことだけで、主催者側は満足し過ぎてはいないか、その内容に対してもっと深く考えることはないのか、とつくづく思う。「フリーパスで入れる」主催者や会場の計画者、スポンサーは一般入場者の状況を知らないのではないかと感じた。

バスを待つ場所の環境

名古屋駅近くのバス乗車ビルの環境は二度来たくない、うんざりするものであった。地上階の最後尾に並び、無言で黙々と待つ。ヘアピンカーブの列が少しずつ前に進み、もうそろそろか、と期待をすると裏切られ、上の階、またさらに上の階へ。ビルの何層も上ようやくバスが待ち受けていた。ゲートに入る前とはいえ、全員同一目的の人々である。なぜここに工夫がないのか。会場内の状況をリアルタイムでテレビモニターによって楽しげに映すとか、これまでの催しのエッセンスを放映するとか.....。信じがたい、灰色の光景であった。



グローバル・ループのミスト装置

ゲート前の環境

バス乗り場が灰色なら、ゲート前は橙色である。9月とはいえ、残暑である。新聞記事の空からの撮影で想像はしていた。しかし、その場に立ってみると鍋の上で炒らされているゴマである。名古屋からようやくバスでたどり着いて地面と空の両方から炒られるのである。

バギーカーでむずかる赤ちゃんも痛々しかったが、目を覆いたくなるのは、ひとりひとりボランティアに伴われた車椅子の団体の人々であった。

ゲート前が広く大きくとられているのは、このように2万人以上もの人の待ち行列を想定してのことなのだろう。それならば、なぜ、そこに立つのが「人」であることが忘れられているのであろうか。

熱く焼けたコンクリートの地面ではなく、こういった場所こそ「人に優しい温熱環境の技術や床素材」を様々満載して披露して欲しいものである。

会場の中や展示館の中だけが環境技術の披露の場では、あまりにももったいない。185日の会期中の大半が暑い時期であっただけに惜まれる。待ち行列の脇に緑陰の並木があるとか、涼風の流れる池があるとか「自然の潤い」があれば、どれだけ多くの人々が救われたことであろうか。

会場の環境

長久手会場のグローバル・ループの動線計画は、うまくできていると感じた。設備では9月の上旬でも「ミスト」が活躍していて、風に揺れる霧の下でお弁当を広げながら寛いでいる家族連れが多く見られた。全体には庇や屋根のある場所が少なく、ループの下のやや暗い空間で、コンクリートの地面に直に座って休憩する人の姿が目立った。



コンクリートの地面に直に座って休憩する人々

広大な緑地が接している割に、自由に入れる場所は限定されているようだった。特に瀬戸会場では、スリ鉢状の熱い地面の「海上広場」に人が多くひしめいているのに、「里山遊歩ゾーン」の入り口はゲートで閉ざされ、木陰で涼むこともできない。桁違いに定員の少ない里山遊歩ゾーンとのアンバランスなイメージ、豊かな自然に囲まれる鳥瞰写真とは全く違う体感をもった。

全体を通して、希望の展示館に入りたくて入れなかった多くの人々への対応にもっと親切さが欲しいと思われた。敷地は十分に広く、方法によっては入場者数が増えなくても充分快適な「見学環境」をつくることができたのではなかろうか。

エコマネー

会場で新鮮な印象をもったのが、「環境通貨の実験事業」エコマネーセンターである。子どもたちが生き生きしている。1回のエコ活動ごとに、EXPOエコマネーが1ポイントもらえて、入場券にたまる仕組みになっている。たまったポイントでエコ商品を受け取ったり、森林保護活動の寄付などにあてたりする。親子連れが楽しげに取り組んでいる様子を垣間見た。環境教育がゲーム感覚で自然に溶け込んでいると感じるひとコマであった。

おわりに

21世紀最初の万博は終わった。関係者の英知の結集である万博をわずか1日半、屋外計画の周遊のみで感想を書かせていただいたことにお詫びを申し上げたい。大規模・最先端技術の満載された高度な展示館、そして広大な会場が用意されても、見る人は100年前と変わらないひとりひとりであること、それが「環境」を考える万博の大切な部分であり、多くの人々がそれに気づいて次の万博に継承して欲しいものである。

(株)寺尾三上建築事務所



森の自然学校のプログラムを木陰で待つ人々



エコマネーの説明をする係員

本音で語る「理論合宿」に初参加

2005年度保存問題委員会理論合宿



保存問題委員会
委員
齋藤 榮

保存問題茨城大会情報

保存問題茨城大会が、2006年2月18日(土)、19日(日)の二日間、茨城で開催されます。大会テーマは、「つくば30年の検証 美しい街を未来へ」(仮称)です。メイン会場は、茨城県つくば市です。「筑波研究学園都市」として建設された「新都市つくば」の30年目の検証と、「美しい街造り」の理念の継承について考えるというものです。なお、大会の詳細は本誌 p.12-13 を参照してください。

理論合宿に初参加

去る8月19日(金)と8月20日(土)の二日間にわたり、泊りがけでの理論合宿に初参加しました。私はこのようなだいたいそれ「理論合宿」というタイトルに、当委員会の新人ということもあって、少々尻込みがちで恐る恐る参加してみました。案の定始まってみると、私にとってはレベルの高い議論が交わされていて、時には丁々発止という場面もありハラハラしましたが、さすがに皆紳士的な建築家で、ベクトルが同じのためか、必ず落ち着くところに落ち着いていたのが、私が最も感心したことでした。

やはり、委員会のミッションである「建物を創る行為を通して社会に貢献することが建築家の役割であると同時に、建築物が健全な形で維持管理され、使い続けられることを図るのも建築家の使命」、「建築は、その誕生から生命が与えられ、可能な限り生き続けることが本来の姿であり、創る行為には使い続けられる前提があり、創造と保存は同意義と考える」ということが当保存問題委員会の諸先輩の方々から受け継がれていることがわかりました。



筆者 西堀副委員長 川上委員長 金山副委員長

これらのことをふまえて、毎年、「本音で語る」理論合宿を行っています。今年度は特に案件が多く、対応に追われているので議論が沸騰しました。今年の理論合宿のテーマは、当委員会の原点ともいえる「保存問題委員会とは、JIA内外各組織との連携方法、JIAとしての保存への今後の取り組み方」でしたが、内容が膨らみがちでとても時間が足りなかったと思います。

特に、「委員会が保存に対してどこまで協力出来るのか」、「要望書の役割とは」、「保存のあり方について、再考はないか」など具体的な事例をあげながら、会議は夜10時半まで続き、休憩をしてからも、ほとんどの参加者の方々がアルコール抜きで深夜まで熱心に議論が行われておりました。私は以前より体調がかんばしくなく深夜は遠慮させてもらいましたので、議論の内容はわかりません。(新人のため雑用もしていましたので疲れて寝てしまいました。)

翌朝8時半より議論を再開しました。話題は尽きず、時間がどんどん過ぎて行きますので10時に中断して、茨城大会について意見交換をすることにしました。この会議に参加された地域会の方々から方針や意向を話していただき、それらを尊重しながら各委員から参考意見を言わせていただきました。委員会の担当者も決められました。

11時頃になりましたが、会議が終わってホットする間もなく会場をあとにして、茨城の方々に案内していただき、重要文化財である「土浦第一高校」を見学しました。感心したのは、クラブ活動中と思われる音楽の生徒たちが気持ちの良い挨拶をしてスリッパまで揃えくれ、先生方の教育が行き届いているのが解かり、こういう人々たちによって歴史的建造物が大切に使われ、動態保存されているのが大変嬉しく思いました。

霞ヶ浦名物のうなぎで昼食をとって、解散となり、私は帰路につきましたが、時間の許される方は、地域会の方々の案内でつくば市へ向かい、筑波大学や市内を熱心に視察されたとのことでした。 エスアイ建築事務所

地階居室への漏水について



塩田 純一

一 相談内容

最近、「地階の居室に漏水している」という相談を受けることがある。建物としては、地階が鉄筋コンクリート造、一、二階が木造の三階建てで、敷地面積が狭い場合が多いようである。調査してみると、地階居室床下へ雨水が浸水して、カビやシロアリが発生しており、地階での通常の生活が不可能な状態になっている場合があった。漏水は、地階コンクリート壁、床および打継ぎ部分の施工不良箇所、基礎構造の欠陥に起因するひび割れ箇所からの浸水によるものが多く、通常、建物周囲への放水試験で漏水箇所を推定するが、まれに、豪雨による地下水位の上昇によって敷地外から雨水が敷地内へ流れ込み、敷地内へ放水試験をしても漏水せず、浸水位置の特定ができない場合もあった。相談者を通して聞いた売り主や施工者の見解としては、「建築基準法は守っているが、施工不良箇所が一部あったので漏水した。補修すれば問題ない」とか、「簡易な地盤調査では地下水位の上昇位置までは判らない。住宅規模では二重壁、床などは設けない。防水補修をすれば問題ない」などがあり、実

際、補修工事を行っているようだが、漏水は止まっていない。

二 建築基準法の規定について

建築基準法による地階の規定としては、平成六年の改正による容積率緩和が挙げられるが、この改正によって、面積が狭く容積率の低い敷地であっても、地階に居室を設けることで、ある程度の床面積を持った住宅が建築可能となり、相談建物と同じような形態の住宅が増えていったようであるが、同時に地階居室への漏水という問題も引き起こしてきたように思われる。地階における防水に関する技術基準は、施行令第二二条の二および告示一四三〇号に規定されているが、抜粋すると、

外壁等の構造が、次の(一)又は(二)のいずれかに適合するものであること。ただし、外壁等のうち常水面以上の部分にあつては、耐水材料で造り、かつ、材料の接合部及びコンクリートの打継ぎをする部分に防水の措置を講ずる場合においては、この限りでない。(一) 外壁等にあつては、国土交通大臣が定めるところにより、直接土に接する部分に、水の浸透を防止するための防水層を設けること。(二) 外壁又は床にあつては、直接土に接する部分を耐水材料で造り、かつ、直接土に接する部分と居室に面する部分の間に居室内への水の浸透を防止するための空隙(当該空隙に浸透した水を有効に排出するための設備が設けられているものに限る)を設けること

となつており、外壁などが常水面以下の場合には防水層を設け、常水面以上の部分にあつては、耐水材料で造り、材料の接合部およびコンクリートの打継ぎ部分に防水の措置を講ずることになっている。

三 今後の課題について

前述一で相談を受けた建物は、いずれも狭い敷地に地階を設けているため、必要な技術的難易度が高く、本来、地盤調査や施工計画、施工図の作成などに相当な準備期間と詳細な内容検討が必要である。ところが、施工者の見解は前述したように概ね、「基準法の規定の通り防水してある」といったもので、施工内容を見ると詳細な検討が成されたとは考えられず、場合によっては防水をしたかどうかさえ不明なものがあつた。また、相談建物には地下水位の計測を行った例はなく、地階に対してどの程度の防水が必要なのか、把握されているとは考えられなかつた。調査後に受けた印象としては、相談建物の施工者には、「どのような施工レベルであっても、防水してあれば基準法をクリアーできるので、問題はない」という考えがあるように思われた。基準法の地階防水に関する技術基準は、平成一二年の告示によって、かなり具体的な仕様が定められてきてはいるが、今後、より詳細な防水仕様規定が必要ではないだろうか。また、施行令に記載された常水面位置についても、計測規定が明らかでなければ、本来の意味を成さないのではないだろうかと思われる。調査を行ったある建物では、地下水位上昇時の水圧によって、耐圧盤コンクリートの小さなクラックの複数箇所から湧き出すように漏水していた。個人的には、地階居室には防水層を設けた上で、二重壁、二重床の仕様規定が必要ではないかと考える。現在、横浜市、川崎市に見られるように、行政側は地階容積率緩和について制限する方向にあるようだが、地階の防水に関する技術基準についても、今後、より安全側への検討が成されるように期待したい。

(株)塩田設計事務所

2005年度 保存問題茨城大会

「つくば30年の検証 美しい街を未来へ」

2006年2月18日(土) - 19日(日)



保存問題茨城大会
実行委員会
実行委員長

内藤 彰

「つくば」で緊急になすべきこと

「筑波研究学園都市」は、研究教育活動の発展と、大都市東京の過密対策という二つの異なった目的を、新都市建設という手段で一つにして計画されたが、国立の研究機関群と、新しい大学、筑波大学として生まれ変わった東京教育大学を移転すべく構想され、国の一大事業として建設された。都市の基幹産業である研究活動を支える人々を東京から移住させることが、その成功の要点であったため、住宅をはじめとして、公園緑地や、歩行者専用道路、小中学校などの教育施設、保育所、児童館などの居住環境整備に、特別な配慮がなされたという。新都市を取り巻く周辺には、大きな櫛の木のある屋敷林を持ち、堂々たる茅葺屋根のある、誇るべき日本の田舎の風景があった。

筑波大学が出来、国立の研究機関の移転が完了した昭和55年、つくばは概成したといわれ、昭和60年に開かれた「つくば科学博」によって「つくば」の名は広く知られるようになった。「つくば科学博」が成功裡に終わった後、当時の竹内知事は、次は第二常磐線を開通させて、「土浦、つくば、牛久地域」を100万都市圏にして、県南を大発展させようと「グレーターつくば構想」を打ち上げたのであった。あれから20年たった今年の8月、待望の「つくばエクスプレス」が開通の運びとなった。つくば

は今、新たな役割を期待され、変容をせまられているように見える。今や、研究開発にこそ、立国の命運がかかってくると言われてきている。「つくばエクスプレス」によって結ばれる首都東京との緊密な連携のもとに、「つくば」は国を背負って立つ「知的財産生産拠点」として再構築されねばならない。

しかし、この大切な時期に、かつての「つくばの街づくりの基本理念」は、忘れ去られたかのような気になる現象が現れたのである。このまま、成り行きにまかされたのでは、「つくばの環境」は崩壊する。つくばの街で起きている気になる出来事が、その予兆のように見えるのである。

一方「新都市つくば」を取り巻く、茅葺屋根のある豊かな環境も、昭和55年当時、すでに「現在どんどん壊されていく民家」と述べられていたが、今はほとんど瓦葺きになっているこの景観も「つくば」をとりまく豊かな環境として大切に保存していくべきである。

穏やかな周辺の環境も含めた「美しい街を未来に伝える」ために、今、緊急になすべきことは、「つくばというモダニズムの街の街づくりの理念とシステム」の検証と、新線開通によって新しく拡大される街に、どうしてもその理念を継承していけるかの議論を始めることであろう。

それを今年の保存問題茨城大会のテーマとした。

2005年度保存問題茨城大会

「つくば30年の検証 美しい街を未来へ」

2006
2/18(土)・19(日)

○ 2/18(土)
会場 9:00～14:30 筑波研究学園都市「つくば研究人英会」講堂
会場予約 10:00～14:30 筑波研究学園都市「つくば研究人英会」受付

○ 2/19(日)
会場 9:00～11:00 つくば研究人英会「つくば研究人英会」講堂
会場予約 11:30～14:00 つくば研究人英会「つくば研究人英会」受付

つくば研究人英会 事務局

(株)のあ設計事務所

「つくば30年の検証 美しい街を・未来へ」

2006

2/18 SAT · 19 SUN

2月18日(土) 9:00 つくばエクスプレス守谷駅集合

- 秋葉原駅 7:55 ~ 守谷駅 8:39 (普通)
- 秋葉原駅 8:00 ~ 守谷駅 8:32 (快速)
- 秋葉原駅 8:05 ~ 守谷駅 8:50 (普通)
- 秋葉原駅 8:10 ~ 守谷駅 8:45 (区間快速)

9:00 ~ 12:00 見学会

坂野家住宅

つくば周辺古民家

12:00 ~ 13:00 昼食 : ホテルグランド東雲

13:00 ~ 16:30 見学会

真壁町街並

13:30 ~ 16:30 地域サミット(会場: ホテルグランド東雲)

18:00 宿泊チェックイン・懇親会 : ホテルグランド東雲

2月19日(日) 9:00 ホテルグランド東雲集合

9:00 ~ 12:00 見学会

つくば中心地区街並みウォッチング

13:30 ~ 16:00 シンポジウム(会場: つくば国際会議場 中ホール200)



筑波新都市記念館

主催: 社団法人日本建築家協会 (JIA 関東甲信越支部保存問題委員会・茨城地域会)

参加申込書

	Aコース	Bコース	Cコース	Dコース
18日ウォッチング(バス代・昼食含む)				
懇親会参加費(夕食兼ねる)				
宿泊費				
19日ウォッチング(シンポジウム参加費含む)				
参加費(資料代含む)				
合計	22,000円	19,000円	12,000円	4,000円

参加希望コース Aコース Bコース Cコース Dコース

住所: _____

氏名: _____

職業(会社名): _____

連絡先 Tel: _____

Fax or E-Mail: _____

申込〆切: 2006年1月31日

FAX 送付先: 03-3408-8294 (日本建築家協会関東甲信越支部 / 担当: 清宮)

E-Mail の場合: mkiyomiya@jia.or.jp

「住宅」を通して市民に伝えていくこと



住宅部会
高木 恒英

今年設立 30 周年を迎える住宅部会では、昨年度から会員の自主登録による名簿更新制とし、イベントをオープンにして、関東甲信越支部の部会として、すべての支部会員に開かれた活動を行っています。また、対外的にも、市民向けセミナーや相談会の実施、新聞や雑誌などマスメディアへの広報・啓蒙活動に力を入れています。

社会への啓蒙と支援活動

市民を対象にする活動には2つの目的があります。ひとつは建築家の職能の認知を広め、建築に対する正しい知識を広めること。もうひとつは、ふだん建築家とは縁がない市民への支援活動です。新潟県中越地震では、多くの住宅部会員が支援に向かい、福岡県西方沖地震でも2名が調査に参加して報告をしました。また、相談会も毎月実施しています。

3つの会場で行うセミナー

定期的な市民向けセミナーは、新宿のリビングデザインセンター OZONE、銀座の INAX ショールーム、JIA 館の、3箇所で開催しています。新宿と銀座はそれぞれ毎月1回、JIA 館は年2回で、今年度は計25回実施します。OZONE でのセミナーと相談会は1995年から10年間も続いています。これらのセミナーは、半年あるいは1年ごとに毎回のテーマと担当するコーディネーター・講師を決めて行っています。

展覧会の開催

2005年1月と9月には、INAX 銀座ショールームで、

会員の作品を展示する展覧会を開催し、それぞれ約40作品のパネルと模型を展示しました。9月の「建築家と考えたそれぞれの年代の住まい展」では、本展のほかに「アクティブシニアが建てたい住まい」として団塊の世代の人々に焦点を当てた企画展示を行いました。いずれも、会期中の土・日・祝日には、1人の建築家と10人ほどの市民が自由に会話を交わす「アーキカフェ～建築家と話そう」というトークイベントを行いました。

マスメディアへの広報と取材対応

住宅部会のイベントは、住宅部会 Web サイト、支部会員向けサイト、一般向けサイト「建築家 online」で広報するほか、約30社の新聞、雑誌等のマスメディアにプレリリースしています。新聞・雑誌からの取材申込みも増えており、今年度は既に3つの雑誌、1つの新聞及びポータルサイトからの取材を受けました。建築家や住宅についての記事が JIA への取材により掲載されるのは歓迎すべきことです。

建築家の資質向上を目指して

住宅部会の活動は、もちろん対市民活動だけでなく、会員のスキルアップのためのセミナーや見学会を、毎月2回ほど行っています。オープンに行っているため、最近では部会員でない JIA 会員の参加が増え、非会員の建築家の参加もみられ、今年度だけで15名ほどの新たな会員の登録がありました。私たちは、これからも、こうした自らの研鑽と社会的体験を通して、建築家の資質向上をはかっていきたいと考えています。

(株)インターセクション 主宰



INAXでの展覧会



OZONEでのセミナー



三島町復興支援キャラバン



上小沢邸見学会

施設見学会と親睦会

Eグループ施設見学会に参加して

穴吹 正春

屋形船が静かに岸壁を離れ、夕闇迫る天王洲運河を進み、レインボーブリッジを見ながら夜景のきれいなお台場沖で碇を降ろし、海より眺める東京の美しい夜景を満喫致しました。

8月30日(火)われわれEグループ総勢32名(男性26名、女性6名)の面々は残暑厳しい中、東京湾よりお台場、品川、汐留、天王洲アイルを眺める施設見学会を開催致しました。再開発によりめざましい発展を遂げる東京のシンボルとしてそびえ立つビル群、そのビルに灯る煌々とした照明などは、われわれEグループの輝ける技術力を見せつけていると言っても過言ではありません。

見学会に引き続き、船内では季節の旬彩料理に舌鼓を打ちながら、しばしカラオケに興じグループの親睦を深め、明日の英気を養いました。初めての参加者もいましたが、支部長をはじめ幹事の方の気配りによりすぐにうち解けることが出来、楽しいひとときを過ごしました。途中別れを惜しむように雨も降りましたが、天王洲に戻る頃には上がり次回の再会を約束しながらのお開きとなりました。

株式会社四電工東京本部



船に集まる
ゆりかもめ
談笑風景



仙行寺総合文化会館東館見学会

Gグループ8月の情報開発部会との共同見学会・勉強会



中田 正二

8月17日のお盆明けの残暑の中、情報開発部会との共同見学会・勉強会が開催されました。

この施設は、「シアター・グリーン」という名で30年にわたって若手劇団の登竜門として知られているもので、9月に新装オープンされたものです。建築面積330m²、延べ1763m²の鉄筋コンクリート7階建ての、劇場としては小さい建築に、大・中・小の三つの劇場が組み込まれた複雑な空間構成の建物となっています。三つの劇場の同時使用を考えての利用者の動線計画や遮音や振動防止のためにさまざまな工夫を凝らした建築となっています。

所在地は東京都豊島区南池袋2丁目20。設計は情報開発部会の山下馨さん(山下馨建築アトリエ)、施工は清水建設です。

(株)住宅生産研究所



外観
シアター

支部財政検討特別委員会の提案



JIA関東甲信越
支部長
松原 忠策

1) 特別委員会の審議の経緯

昨年、日本建築家協会が会員種別の整理と若い会員の増強を目指し、正会員の会費を前年までの半分に値下げした。その結果若い会員獲得の目的はある程度果たすことが出来たものの、それ以上に年配の会員の退会者が多く、そのために会費収入の大幅減収となった。本委員会は、本部から支給される支部運営費が50%以上もカットされ、収入減に陥った支部財政に対処する緊急の対策を講じる特別委員会として設置された。

委員会審議のスケジュールは本年6月以降6回の会合を重ね、9月26日の第7回特別委員会において、地域会会長に委員会の結果を報告し、地域会会長の同意を得て支部役員会で審議、議決となった。同時に支部会員への広報を徹底して、来年2月～3月に次年度の実行予算作成に支障のない手続きをとる。

この度の緊急対策は会員増強が果たせなかった結果の収入減を恒久的な会費などの値上げで解決するか、あるいは今後の会員増強を目指して、目標の会費収入達成までの緊急処置とするかについて、本特別委員会は後者の対策を採ることを決めた。現在の支部規定には緊急拠出金などの徴収に関する規定はないが、次期総会で実行予算の審議にはこの緊急拠出金による収入が項目として上がるので、当然これが総会での審議事項となる。従ってそのために予算作成以前に臨時総会を開いて審議を行う必要性が生じる。

第7回の特別委員会では、来年度の財政支援のために必要な財政支援金の考え方のさまざまなケースについて、第5回特別委員会で各地域会会長の意見を聞き、次の特別委員会で整理し、各ケースについての評価をして、そのうちの最も適当と思われるものを特別委員会として地域会会長に提案した結果、了承された。(詳細は支部サイト：<http://www.jia-kanto.org/members/>の第7回支部財政検討特別委員会議事録参照)

2) 特別委員会の評価基準

不足する収入を補うために会員より集める資金は、

次年度および近次年度の緊急拠出金とし、一般会費のように恒久対策としない

緊急拠出金は全ての会員から公平に徴収できる方法とする。ただし、会費が36,000円に減額された以降に入会した新会員について配慮するかどうかについては1つの評価軸として選択する
第2グループが検討している定款や規則に適合せず、来年度の緊急拠出金の徴収に間に合わないケースは選択しない。

現在JIA本部で審議している本部、支部、地域会の見直しなど、JIAの将来体制については、次年度までに結論が出て定款改正などの手続きを経て実施されるには数年を要する。したがって、当特別委員会はその議論の方向は見定めつつも現状のJIA体制を基準に結論を下すこととする。

3) 最も推薦できるケースについて

第3グループの作成した検討表には、大きく4つの徴収名目が上げられている。緊急拠出金A～C(差込み資料参照。この元原稿にはA3資料が添付されて役員会に配布されました。A3資料は文中に入れるスペースがありませんので、Bulletinに差込みます)については対象が支部財源の補填か、地域活動費の補填およびその両方を対象にしたものとしている。地域活動費の補填を名目にした拠出金Bは拠出金の額を自由に決め、地域会の独自性を与えることが出来るが、次年度までには地域会に属する会員の名簿を作成することは困難であり、全会員からの公平な徴収が不可能である。従って公平な徴収という視点からは、B-2やC-2のように支部が一律に徴収するケースが考えられる。このケースは実質的にA-3と同等であるが、名目上地域会の独自性を主張することが出来る。しかし地域会が組織されていない東京の会員1700名を考慮した場合、その名目が実体とは乖離してしまう。

したがって、前項2)の特別委員会の評価基準に従えば、徴収名目Aの中の1～3のケースが最も適合する。A-1は徴収金額の基準が最も多く、昨年度までの支部

運営方式に近い積極的な支部運営が可能となる。A - 2は第1グループで試算した支部運営費を基にしたミニマムな徴収金額に、36,000円の会費で入会した新会員からは少なくとも次期は緊急拠出金を徴収しないための金額を加えるという考え方である。A - 3はその配慮をしないケースである。

第5回の特別委員会で、地域会会長の意見の中で、拠出金の額は出来るだけ少なく、ただし新会員から新たな拠出金の徴収は避けるべきとの要望が強く出された。本部の執行部の中にはすべて会員は同等とすべきという意見もあるが、関東甲信越支部としての本特別委員会は、新会員については当分36,000円の会費のみとするが、その優遇処置については一応の期間を定めることとし、少なくとも次年度についてはそれを見送ることとしたい。したがって、本特別委員会はA - 2案を役員会に提案した。(差込み資料参照)

4) 第5回関東甲信越支部役員会での審議
特別委員会の提案は審議の結果承認された。

ただし、支部財政の危機に対処するために、全会員からの篤志による寄付を受けるべきであること、および支部規定や、JIA定款については、緊急措置が間に合うことを条件に、改定すべき事項は改定をすべし、という付帯事項が課せられ、その内容は特別委員会に一任された。その結果特別委員会は次のように議決事項の確認を行った。

1. 日本建築家協会関東甲信越支部は、来年度以降の財政緊急対策として、さまざまなケースを検討した結果、別表A - 2のケースおよびDのケースを採用することを決め、次年度は緊急拠出金として2004年度、2005年度に入会した新入会員を除き、関東甲信越支部に所属するすべての会員より一率に10,000円を来年度の会費とともに徴収する。新入会員の緊急拠出金に対する優遇処置は2年を限度とする。

同時に財政支援に対して全会員(新入会員を含む正会員および賛助会員)の篤志による寄付を受け付ける。寄付は1口5,000円とし、口数は制限しない。

2. 前項の議決に伴い、支部規定第18条を次のよう

に改定する。

「この支部の経費は本部よりの運営費、または事業から生ずる収入、寄付金、支部賛助会費、緊急拠出金およびその他の収入でこれを支弁する。」
(支部賛助会員を支部賛助会費に改定。緊急拠出金を加える)

同時に、日本建築家協会 会費規定第2条に(4)として「正会員の時限的な緊急拠出金」(財政建て直しのために正会員から徴収することができる)を加えることを理事会に対し、関東甲信越支部提案として提出する。

5) 臨時総会までのスケジュール

- ・ 11月1日
支部HPに議事録およびWG作成の資料の形成
- ・ 11月15日
Bulletin12月号に今後のスケジュールの発表
- ・ 11月25日
地域サミットにて各地域会での会員集会開催の要請。同時に、委員会部会長およびLF懇に対して議決事項の説明会開催の要請
- ・ 1月20日
支部会員集会を常任幹事会、地域サミット、新春の集いと同日開催
- ・ 2月23日
臨時総会通知の発送
- ・ 3月9日(木)
JIA 関東甲信越支部臨時総会
以後のスケジュール予定
- ・ 3月16日
役員会(決算および2006年度実行予算の審議)
- ・ 4月13日
役員会(決算および2006年度実行予算の承認)
- ・ 5月 JIA関東甲信越支部総会

[なお、財政検討特別委員会議事録その他詳しい資料は、支部サイト：<http://www.jia-kanto.org/members/>の特集ページを参照してください]

2005年第4回役員会議事録 概要

日時：2005年9月15日(木)15:00～18:00

場所：建築家会館3階会議室

木村副幹事長が議長となり、定足数の確認を行い、議事進行を行う。

1. 前回議事録の確認

2. 報告事項

1) 支部関連の動き

(1) アーキテツ・ガーデン2005進捗状況

(10月20日～25日：INAX)

中山担当副支部長より企画進捗状況として、銀座をメイン会場に各催し、展示企画と、若い方々の参加促進としてのミニデザインコンペ、銀座の街づくりに関するシンポジウム、UIA関連のワークショップ報告・シンポジウム、新会員の集いと作品展のほか、横浜を会場に全国学生卒業設計コンクール公開審査・展示、杉並では公共施設発注に絡む設計者選定のシンポジウムなど各企画が広範囲に開催される旨の説明と積極的な参加要請が行われた。

(2) 子ども教育事業企画について

竹内副支部長（教育文化事業委員長）より前回の役員会の折に報告した「子ども建築教育支援活動」に関して、子ども夢基金申請事業としてアーキテツ・ガーデン開催時期と多少ラップする事業として、10月8日から11月初旬にかけて5回、環境と建築をテーマに「雨水を利用した建築づくり」が、法政大学を会場に開催されること。財源としてはゆめ基金からの助成金と賛助会員の事業協力を、交流委員会を通じて依頼していることや独立採算を基盤に事業の展開を考えていること、また来年度は地域会での展開を考えており事業企画があれば申し出てほしい旨、報告がされた。

(3) 東京地域会の動き

中山副支部長より、新宿、世田谷、渋谷の地域会準備会が動き始めていること。地域会の定款での位置づけについて本部の組織運営WGで検討がされて、9月の全国地域会合同会議でも組織の検討（活動の主軸を地域に、47都道府県単位の組織化、地域会を支部に、新支部内の組織は支部に任せる、会費は本部で本部会費、支部会費）、専・兼問題（基本政策会議報告では将来、兼業建築家もJIA会員への受け入れや、UIA、AIAでの専・兼の状況、登録建築家資格には専・兼の別がないこと）について検討などの場が持たれたこと、関東の地域会の問題として東京の地域会をどう立ち上げるかがポイントになり、8月24日の9県地域会代表者会議で東京との関連も踏まえて検討が必要との見解もあり、役員会や地域サミットなどで議論を重ねて行くことにしている旨、報告が行われた。

また松原支部長から東京の地域会と東京の支部、他県の地域会との関係の問題が今後議論になってくること、東京と他県の関係、また県単位での組織化や、状況に応じて隣接県同士での連携などいろいろなケースが考えられることなど、今後検討を重ねていく必要があることの説明がされた。

意見として、UIAの専・兼の条項の最新状況の確認と、支部、地域会に関する組織的な問題は、然るべき組織での議論・検討の必要性が指摘された。

(4) 神田川サミット2005 at 接点企画

事務局より、9月25日に「川と道と文化の交わる所」テーマに、神田川ウォーキング、フォーラム「水と陸の交差点」、交流会が講師に会員の大隈哲氏を迎え、また支部情報開発部会も後援し、開催される旨、報告が行われた。

(5) オートデスクデザインコンテスト審査員の件

伊平副支部長より、全国学生卒業設計コンクール特別協賛会社のオートデスクから3次元のデザインコンテスト開催にあたり建築家の審査委員人選の依頼に対して、三菱地所設計・武田有左会員を推薦した旨の報告があった。

2) 本部関連の動き

(1) 企画運営会議（8月24日）

(2) 理事懇談会・全国地域会合同会議報告（9月8日）

松原支部長より「設計者選定法」に関するアンケート調査を会員事務所を対象に実施し集計の取り纏めを行っていること、入退会状況および会費納入状況、AIAとのCPD相互認証、各賞（環境建築賞、ARCASIA建築賞国内審査、JIA新人賞、日本建

築大賞・日本建築家協会優秀建築選）の報告と建築年鑑で各賞受賞作品を纏め発刊することなどについて報告がされた。

3. 承認事項

1) 後援名義使用の件

事務局より、東京建築士会から11月19日(土)「第11回公開シンポジウム・集合住宅再生・ひと・記憶・環境の魅力さをさぐる」後援依頼に申し説明があり、事後として承認した。

4. 特別委員会関連事項

(1) 支部財政に関する動き（支部財政検討特別委員会）

松原支部長より特別委員会では、4つの検討グループをもとに検討を行い、第1グループでは収入と支出の想定の検討願ひ、不足分として1,800万円の想定に対し、第2グループには不足分の徴収に関して来年度に間に合うように、定款・規定などのすり合わせあわせの検討を願ひ、第3グループで、具体的に財源確保のための徴収方法のマトリックスを作成し、最善の徴収方法を検討し、第4グループには、会員に対する広報をお願いすることで、現在、検討が行われており、9月26日に地域会代表の出席のもと、最終案の検討を行い、支部役員会に検討を願ひ旨の報告が行われた。中山副支部長より第1グループでの地域会への活動費の配分に関し、現状の状況や、会員数、事務局の有無、東京の新規地域会設立の状況などを踏まえ、シミュレーションを作成して検討を行っている旨の状況報告が補足説明された。

なお意見として、会員に対して状況説明やコンセンサスが得られるような木目細かな対応を願ひたい旨出され、会員集会や個別説明会、逐次情報発信による広報を図ることを考慮することとした。また会の財政問題に関して本部での然るべき検討についても意見として出された。

(2) 懲戒問題に関する件

（懲戒問題に関する意見集約のための特別委員会）

篠田常任幹事より前回の役員会で概略説明し了承をいただき、若干語句の訂正や追加意見があり、整理した答申案の取り纏めを行った文案の紹介があり、これを確認した。

5. その他

1) 次回役員会は、12月16日(金)であるが、支部財政に関する手続き上、10月20日予定の常任幹事会を役員会として開催する方向で、調整することとした。

2) 会員増強に絡めて、設計者選定などの際に、公開性、平等性などの諸状況もあるが、建築家協会会員などの標記が出来ると入会の促進に繋がるのではないかと、また社会的問題に対して、建築家協会としての提言をすることにより社会からの認知も深まるとともに、会員に対するサービス強化（業務に関する問題やトラブル、法的アドバイスなど）も必要ではないかなど、種々自由意見交換が行なわれた。

以上

2005年第5回役員会議事録

日時：2005年10月20日(木)10:00～12:30

場所：京橋プラザ区民館2階多目的ホール

1. 報告事項

支部関連の動き

アーキテツ・ガーデン2005（10月20日～25日：INAX）

3. 承認事項

1) 後援名義使用の件

(1) 東京建築士会「第2回市民フォーラム・我が家のリフォーム・必要性とポイント」

(2) ギャラリー間20周年記念展・日本の現代住宅及び連続講演会＋手塚貴晴・手塚油比展及び講演会

2) 支部選挙管理委員会構成の件

3) 支部財政緊急措置に関する件

4. 検討協議事項

(1) JIA20周年大会について

(2) 交流委員会賛助会員代表幹事などの任期の件

(3) 新人の作品発表実行委員会立ち上げの件

(4) 顧客支援システムに関する件

5. その他

次回役員会開催日程：12月16日(金)15:00～18:00・JIA会議室

以上

こんな本を読みました

「行動主義」

レム・コールハース ドキュメント



著者：瀧口 範子
B6版 / 438ページ / 1,800円+税
2004年3月15日発行
発行：TOTO出版

この本は昨年の「カーサブルーラス」によると、「都心3書店の売上ナンバーワン」に輝いていたと記憶しています。かなりの方が読破済みのことと思いますが、インパクトの強さから遅ればせながらこの欄に取り上げさせてもらいました。

まず驚くのが「装丁」。(少なからずコールハースの意向を反映しているはず……) わら半紙調の紙に無造作にページいっぱいに文字の書かれた表現は、ドキュメントとしてのスピード感を伝えるには効果満点です。

コールハウスへのすさまじい密着取材は、きわめてリアルに彼の考え方・仕事の進め方(知性・行動力・戦略性・臨機応変さ……)を読者に伝えてきます。また、後半の彼と一緒に走るプレーンたちへの取材は、さらに多面的にコールハウス像を浮かび上がらせます。

彼の才能とエネルギーに対し、ただただ感心するのと同時に、これからの新しい建築家像あるいは建築家としてのスタンスを感じ取ることが出来る書でもあります。そこから浮かび上がるキーワードは、リサーチ・メディア・ネットワーク・コラボレーション・社会性……等々。

(株)三菱地所設計 / 山本 信治

広報から

支部サイトから本を注文しよう!

支部サイトの建築家online:

<http://www.jia.kanto.org/>から本が買えます。コンテンツ「建築を楽しむ」の「ブック・ガイド」には、広報委員が推薦する本が紹介されています。興味がある本の画像をクリックし、気に入れば通販サイトのアマゾンから本を買うことができます。支部のサイト閲覧者がアマゾンから本を買くと、手数料が支部口座に振り込まれますので、支部財政に協力することになります。どうぞ注文を!

編集後記

養老孟司の「脳とこころ」の講演会に出かけた。若い人から年配の方まで、聴衆の年齢の広さにびっくりした。「バカの壁」が200万部近く売れているのが、分かったように思った。脳は、寝ているときも働いているようだ。寝ているときに、どうも脳はリセットしているらしく、それでバランスを保っているという。土をいじっていると、不思議と疲れが取れるのも、脳が知らない間にリセットを行なっているのかもしれない。おかげさまで、プランターの稲は、今年は実が大きく、豊作であった。今年は何となく脱穀して、食べてみたい。(S.S.)

愛犬マークと休日の散歩を楽しむようになって、早や10年になる。その時間は家内との貴重なコミュニケーションの時間でもあり、街の変化について考えさせられる時間でもある。都心近郊では、車社会の発展に伴い駐車場は家庭から貴重な緑の庭を奪い、今その駐車場は高齢化と共に車を失って家からあふれたゴミ置場化している。いつの日かこのスペースが家庭や街にとって大切な空間に生まれ変わることが出来るのだろうか。考えさせられる散歩の日々が続く。(N.Y.)

編集：社団法人 日本建築家協会
関東甲信越支部広報委員会
委員長：森岡 茂夫
副委員長：櫻田 修三
委員：大岩 義充・倉島 和弥・郡山 毅・近藤 剛啓・鈴木 利美
寺本 晰子・中村 高淑・林 秀司・保坂 公人・本田 宣之
山本 信治・山本 俊雄
編集長：櫻田 修三
編集委員：大岩 義充・倉島 和弥・鈴木 利美・寺本 晰子
山本 信治・山本 俊雄・菊地 良一
発行人：菊地 良一
発行所：社団法人日本建築家協会 関東甲信越支部
〒150-0001 東京都渋谷区神宮前2-3-18 JIA 館
TEL 03-3408-8291(代) FAX 03-3408-8294
印刷：サンデー印刷社
©社団法人 日本建築家協会 関東甲信越支部 2005

JIA関東甲信越支部関連サイト一覧
(社)日本建築家協会(JIA) <http://www.jia.or.jp/>
建築家online(一般向け) <http://www.jia-kanto.org/>
JIA 関東甲信越支部(会員向け)
<http://www.jia-kanto.org/members/>
交流委員会 <http://www.jiakanto-koryu.org/>
保存問題委員会 <http://www.archiweb.com/jia-hozon/>
JIA 建築セミナー <http://www.jia.or.jp/kanto/seminar/>
住宅部会 <http://www.jia-kanto.org/jutaku/>
情報開発部会 <http://www2.bpo.co.jp/jia/>
都市デザイン部会 <http://www.jia.or.jp/kanto/ud>
メンテナンス部会 <http://www.jia-kanto.org/mente/>
中野地域会 <http://www.eva.hi-ho.ne.jp/jia-nakano/>
群馬地域会 <http://www.jia-kanto.org/gunma/>
長野地域会 <http://www4.ocn.ne.jp/jia-naga/>
神奈川地域会 <http://www.jia-kanto.org/kanagawa/>
千葉地域会 <http://www.chiba-kentikuka.jp/>
茨城地域会 <http://www.mfweb.net/jia-ibaraki/>

定価300円(購読料は会費に含まれています)

1/3 広告
ABC 商会

イベントセミナー - 情報

住宅部会セミナー 施工者からみた「感心しない家づくり」 (CPD認定プログラム：申請中)

施工者の立場から、現代の住宅のさまざまな問題点が語られます。私たち建築家にとっては耳の痛い話になるかもしれません。

講師：住吉賢洋氏（住吉建設株式会社 代表取締役）

日時：11月30日(水) 18:30 - 20:30

会場：JIA 館5階A会議室（東京都渋谷区神宮前2-3-18）

参加費：1,000円（住宅部会員・研究会会員・部会賛助会員は無料）

主催：JIA 関東甲信越支部 住宅部会

申込・問合せ先：JIA 関東甲信越支部住宅部会事務局 <http://www.jia-kanto.org/members/> E-mail: jutaku@jia-kanto.org/

交流セミナー 学校建築における交流空間 最近の実作例より (CPD認定プログラム：申請中)

日時：12月6日(火) 16:00 - 20:00（受付：15:30より）

講師：藤野敏幸氏・露木正嘉氏・勝山真氏（(株)日総建）

会場：INAX 銀座ショールーム8階セミナールーム（東京都中央区京橋3-6-18 TEL: 03-5250-6560）

懇親会：会場：うすけばー京橋店（東京都中央区京橋3-1-1 東京大栄ビルB1 TEL: 03-3277-2247）/ 時間：18:00 - 19:30

定員：70名（申込先着順）

参加費：講演会のみ：2,000円 / 講演会 + 懇親会：6,000円（当日受付にて / 当日キャンセルの場合は、後日請求されます）

主催：JIA 関東甲信越支部 交流委員会 C・Dグループ

申込：11月30日(水)までに、氏名・所属先・TEL・FAX、講演会・懇親会の有無を明記の上、事務局までFAXにて申し込み下さい

TEL: 03-3408-8291 / FAX: 03-3408-8294 E-mail: rkikuchi@jia.or.jp/

JIA住空間探求シリーズ戦後編 - 1 かつて住宅には「思想」があった (CPD認定プログラム：申請中)

かつて建築家のつくる住宅には「思想」と呼べるモノがあった。それは何か。そして現在、建築家のつくる住宅に「思想」はあるのか。あるとすれば、60年代、70年代との違いは何か。

- | | | |
|--------------------------|---------------------------|-------------|
| 1. 11月16日(水) 18:30 - | 大高正人が語る、前川國男の住宅（自邸ほか） | 質問者：阿部 仁史 氏 |
| 2. 11月30日(水) 18:30 - | 富田玲子が語る、吉坂隆正の住宅（自邸ほか） | 質問者：宮本 佳明 氏 |
| 3. 2006年1月18日(水) 18:30 - | 太田隆信が語る、西沢文隆の住宅（コートハウスほか） | 質問者：竹原 義二 氏 |
| 4. 2006年1月25日(水) 18:30 - | 内藤廣が語る、山口文象の住宅（自邸ほか） | 質問者：西沢 大良 氏 |
| 5. 2006年2月22日(水) 18:30 - | 坂本一成が語る、清家清の住宅（斎藤助教授の家ほか） | 質問者：黒沢 隆 氏 |
| 6. 2006年3月15日(水) 18:30 - | 難波和彦が語る、池辺陽の住宅（立体最小限住宅ほか） | 質問者：飯田 善彦 氏 |
| 7. 2006年3月29日(水) 18:30 - | 広瀬謙二が語る自作の住宅（SHシリーズほか） | 質問者：岸 和郎 氏 |

コーディネーター：黒沢隆氏・北山恒氏・木下庸子氏・篠原聡子氏

今後語られる予定：坂倉準三、白井晟一、丹下健三、増沢洵、吉村順三の住宅

会場：JIA 館1階ホール（東京都渋谷区神宮前2-3-18）

参加費：各2,000円 定員：100名

受講希望者は、講座番号・住所・氏名・連絡先（TEL、FAX）を明記し、FAXにて申し込みください。

主催：日本建築家協会

申込・問合せ先：日本建築家協会 TEL:03-3408-8291 / FAX:03-3408-8294(担当：佐藤由巳子 E-mail: ysato@jia.or.jp/)

広告
INAX